

## 平成31年度男女平等推進行動計画進行管理結果の概要

## 1. 取組の実施状況

実施状況については、9割の取り組みについて当初の予定通りの実績を達成できた。

総取組件数	140件
実施状況が「○」だった取組	127件
実施状況が「◎」だった取組	2件
実施状況が「△」だった取組	6件
実施状況が「×」だった取組	3件
実施状況が「 」だった取組	2件

## ○予定以上の実績を上げた取組「◎」

- ・取組番号23番 延長保育、病児・病後児保育など保育サービスの実施  
(22ページ)

## 【評価の理由】

共働き世帯の増加により、病児・病後児保育へのニーズは高まっており、昨年度同様多くの利用実績があった。今後も利用者の増加が見込まれ、子育てと就労の両立に向けた環境整備が必要である。

- ・取組番号52番 小学校区を基本的な単位としたまちづくり協議会設立の推進  
(48ページ)

## 【評価の理由】

昨年度モデル小学校区を2か所設定し、引き続きまちづくり協議会設立推進を図ることができた。

## ○当初の予定通りの実績を上げられなかった取組「△」

- ・取組番号5番 なるほど行政講座の中で男女平等に関連する情報の提供  
(5ページ)

## 【評価の理由】

平成30年度から講座タイトルの変更及び内容の修正を行ったが、講座開催希望がなかったため。

- ・取組番号22番 保育所等の充実  
(20ページ)

## 【評価の理由】

民間保育施設等の誘致については順調に進んでいるが、既存保育所等の定員・受入枠の拡大について、保育士不足等の理由により進んでいないため。

- **取組番号39番 男性料理教室の実施** (36ページ)

【評価の理由】  
他の食育講座とともにスケジュールを周知したが、参加率が微減したため。
  - **取組番号66番 女性活躍推進法に基づく地域協議会についての検討** (60ページ)

【評価の理由】  
令和2年3月に白井市商工会及び白井工業団地協議会の会員を対象とした、ハラスメントに関する研修会を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となり、進展がなかったため。
  - **取組番号93番 DV啓発のための啓発・窓口周知** (87ページ)

【評価の理由】  
例年「コミュニケーション講座」を実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となり、十分な啓発活動が行えなかったため。
  - **取組番号129番 他市町村との連携、情報交換** (130ページ)

【評価の理由】  
例年「ちば男女共同参画行政担当者連絡会議」に出席し、男女共同参画における様々な分野・課題について意見交換・情報共有をしていたが、台風15号等の影響により中止となり、十分に行うことができなかったため。
- まったく実績がなかった取組「×」
- **取組番号2番 青少年女性センターでの男女共同参画事業の実施** (2ページ)

【評価の理由】  
新たに実施するための事業について検討を行ったが、新規事業を実施することができなかったため。
  - **取組番号17番 ドリームチャレンジャー事業の実施** (16ページ)

【評価の理由】  
平成29年度をもって事業廃止となったため。
  - **取組番号18番 子どもごとフェス事業（地方創生戦略から）の検討** (17ページ)

【評価の理由】  
前期実施計画当初から事業実施方法について変更があり、単独事業は行っていないため。

※実施状況が空欄となっている、取組番号19番については隔年実施のため、取組番号62番については案件自体がなかったため、評価なしとした。

## 2. 数値目標（年次進行管理分）の実績

数値目標を設置し年次進行管理を行う指標6件については、年度により大きく差が出る項目もあることから一概に言えないが、「自治会長に占める女性の割合」については、自治会ハンドブックの中で男女とも自治会等運営への参画を促すなどの取り組みを引き続き行っており、平成31年度においても目標値を超える実績値となった。

一方で「積極的に育児をしている父親の割合」については、昨年度に続き計画策定時の実績値を割り込んでいるが、4か月育児相談・1歳6か月健診・3歳児健診の間診票の中に「両親で協力して育児をおこなっていますか」という設問に対し回答している件数を集計しているが、実績値が低下しているといっても、一概に積極的に育児に関わる父親の割合が減っているという判断はできないため、数値測定方法について、調査研究を行う必要があると思われる。

平成30年度実績のなかった「市役所内男性育児休業取得率」については、制度の周知を図り前年よりも取得者は増加したものの、男性が積極的に育児休業を取得する意識の醸成に至っておらず、依然1名である「女性消防団員数」とあわせて、意識啓発等の方法について検討が必要であると考えられる。

また「市が設置する審議会などにおける委員の男女比」については、計画策定時実績を割り込んでしまったが、改選などで各審議会等の選任委員の男女比率が大きく変わってしまうことなどもあることから、取組番号90番の無作為抽出による公募委員候補者登録制度で女性委員を増やす取り組みを行っており、引き続き目標値達成のため配慮が必要となっている。

なお、前年度実績値を大きく割り込み計画策定時の実績値以下となった「市役所内女性管理職（課長級）の割合」については、昇格方針において女性の積極的な登用を図っているが、女性課長の部長昇格や課長候補職の基準在職年数の関係等から、前年度実績値を割り込んでしまった。今後も引き続き、管理職候補者に研修参加を促す等、人材育成を行うとともに女性の積極的な登用を図り、目標値へ近づけるよう努める。